荒尾市民病院
市民を愛する　市民に愛される　病院へ
地域医療連携だより
小岱
第43号（2021年9月発行）
地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　臨床研修病院（基幹型・協力型）
脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関　災害拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院　第2種感染症指定医療機関　地域周産期中核病院

ごあいさつ　　院長　勝守　高士

有明地域の連携機関の皆様には、新型コロナウイルス感染第5波の中、病診連携を通して患者中心の効率的医療構築に貢献していただき誠にありがとうございます。

今年の４月には荒尾市民病院内で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生してしまい約１ヶ月間診療制限を行うこととなり皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。入院患者全員に入院時PCR陰性を確認するという熊本県内で最も厳しい院内感染予防策を行っていた中での感染でしたので新型コロナウィルスの院内感染を予防することの困難さを痛感致しました。現在は、入院時に新型コロナウイルスの抗体価も測定し、抗体陰性の患者においては入院後５日目にもPCR検査を行い、入院時のウイルス保持者のすり抜け防止を行っています。

現在、日本全体にデルタ株による第５波が襲来し、その患者数は連日過去最多の記録更新が報道されています。有明地域においても７月以降デルタ株が主体になっています。デルタ株の特徴は、①感染力が非常に強い（季節性インフルエンザより強く、空気感染する水痘と同程度）②ウイルス量が多い（感染者体内のウイルス量が従来型新型コロナウイルスの約1000倍以上）③従来型と違って若年者にも感染する④重症化しやすい（従来型の2.2倍、アルファ型の2.4～2.6倍）です。ワクチンの効果に関しては接種後でも感染することはあるものの重症化を防げる（ファイザー社m-RNAワクチンのデルタ型に対する効果：感染予防効果64～79%、発症予防効果64～88%、入院予防効果93～96%、死亡予防効果93%）ことが報告されています。このように脅威のデルタ型変異ウイルスですが、基本的な感染対策は今までと変わりありません。ただし、これまで以上に感染しやすいため、より厳格な感染対策が必要です。マスクを着用していても換気不十分な部屋での会話による感染や換気の良い屋外でのバーベキューでも感染が報告されています。３密を避け、手洗い、会話時のマスク着用を完璧に行う必要があります。

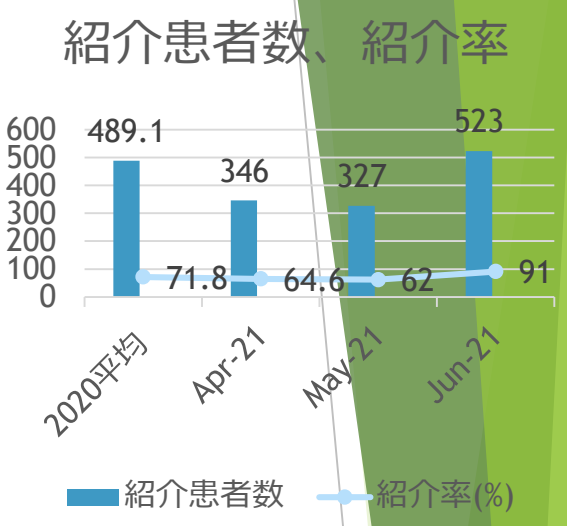
新型コロナウィルス感染の診療においては、限られた医療資源を有効に利用して、自らの感染を予防しながら、感染患者の重症化を予防し、Preventable Death（予防できた死）を最小限にしなければなりません。

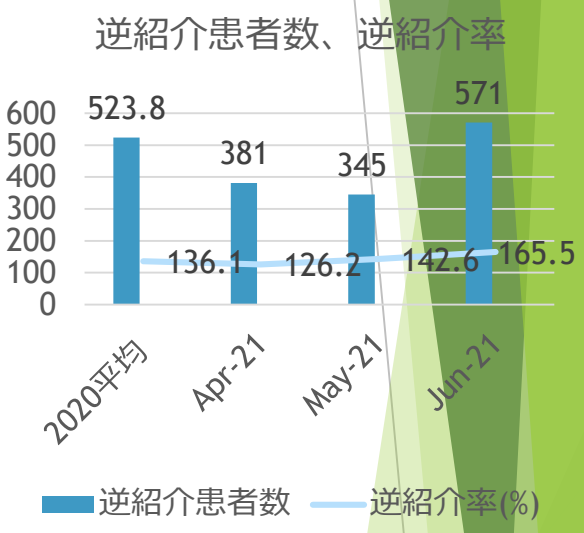
PCR陽性が確認された患者には診察・採血・ＣＴ等で重症化を予測し、重症化リスクが高く感染早期のウイルス量が多い時期には抗ウイルス療法を中心に、ウイルス量が減少した後のサイトカインストーム時にはステロイドを中心とした治療が必要です。

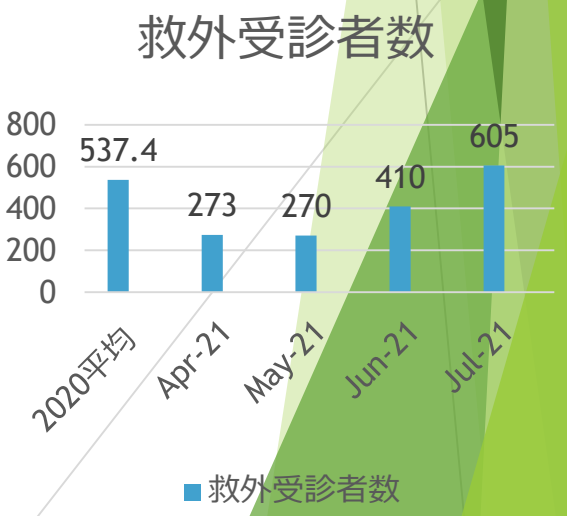
低酸素血症に対しては、人工呼吸を含めた呼吸管理が必要であり糖尿病などの合併症管理も非常に重要です。施設内で陽性患者が発生した場合、感染経路を充分に問診し、院内感染を最小限にするためのゾーニングを確実に行わなければなりません。この有明地域で新型コロナウィルス診療を円滑に行うためには、各施設間で正しい医療知識の共有、各診療施設の情報の共有が必要不可欠であり、病診連携が重要となります。情報共有のため、先日より企画致しました新型コロナウイルス感染症有明地域会議を今後とも行って参りますのでよろしくお願い致します。

さて、４月以降の当院への紹介患者数は、2020年度平均の489.1人/月（紹介率71.8%）から4月、346人/月（64.6%）、５月、327人/月（62.0%）と約150名（約9%）減少しましたが、6月には523人/月（91.0%）まで増加しました。当院からの逆紹介者数も昨年の523.8人/月（逆紹介率136.1％）から４月、381人/月（126.2％）、５月、345人/月（142.6%）と約170名減少した後、6月には571人/月（165.5%）と増加し昨年平均を上回りました。救急外来受診者数も4月、5月は減少しましたが、6月から持ち直し、7月は昨年平均を上回りました（図参照）。

今後、第5波の影響が心配ですが、荒尾市民病院は荒尾市唯一の急性期病院として新型コロナウィルスの院内感染を予防しながら病診連携を緊密に行い効率の良い診療を行うことで地域住民の健康の維持・増進に努めていく所存です。今後ともよろしくお願い致します。







新型コロナウイルス感染症有明地域会議

今年６月より、新型コロナウイルス感染症に対する関係機関の連携を図る目的で、救急科医長　田畑先生司会のもと、有明保健所・荒尾市医師会・玉名郡市医師会・くまもと県北病院・和水町立病院の先生方と『新型コロナウイルス感染症有明地域会議』をＷＥＢ（ＺＯＯＭ）にて始めました。回を重ねるごとに参加機関も増え、荒尾市・玉名市・長洲町・南関町・玉東町・和水町の行政機関や荒尾市・玉名郡市薬剤師会・有明消防・訪問看護ステーションの方々にも参加していただいております。

現在急増している自宅療養患者さんのための診療方法について医師会先生方の協力のもと電話診療体制の構築しております。コロナ禍のため、集合して会議を行うことは叶いませんが、ＷＥＢで毎回活発な議論がなされています。この会議で更に地域医療連携が進み、新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを目指しています。

くまもとメディカルネットワークを活用しませんか？

『くまもとメディカルネットワーク（略称：KMN）』とは、熊本県・熊本県医師会・熊本大学病院が連携して推進している共同事業です。熊本県内の利用施設（病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設など）をネットワークで結び、患者さんの診療・調剤・介護に必要な情報を共有し、医療・介護サービスに活かすシステムです。

KMNでできること

①診療情報ビューア

患者さんが同意した施設間では、診療情報（病歴・処方歴・調剤歴・注射歴・液体検査・放射線検査・内視鏡検査・生理検査・入退院歴）を共有できます。

②文書送受信機能

KMNに参加している施設間では、KMNを利用し、診療情報提供書・検査データ・画像の送受信ができます。FAXより安全で、郵送より早いです。

③救急搬送モード

災害時やかかりつけ以外の医療機関に救急搬送された場合、患者さんが指定した医療機関以外でも緊急措置に従事する医療従事者は患者さんの情報を共有できます。詳細は、KMNホームページ（kmn.kumamoto.med.or.jp）をご覧下さい。

荒尾市民病院はKMNの活用を進めていく方針です。地域の医療機関・介護機関の皆様も、KMNの導入・活用をお願いいたします。

手術認定看護師の紹介　　手術室　高野　亜紀子

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりと質の向上を図ることを目的として、日本看護協会が発足させた制度です。

認定看護師の役割は３つあります。実践、指導、相談です。実践は個人、家族および集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術および知識を用いて水準の高い看護を実践する。指導は看護実践を通して看護職に対し指導を行う。相談は看護職等に対しコンサルテーションを行うとされています。

現在認定看護師は、２１分野があります。その中のひとつに手術看護認定看護師があります。手術看護認定看護師も日本看護協会による認定資格です。日本看護協会では、手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理（体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理等）周手術期（術前・中・後）における継続看護の実践とされています。

手術看護認定看護師に期待される能力は以下の７つです。

1. 手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を持ち、手術患者の身体的・心理的・社会的な状態を総合的に判断し、外回りの看護師として個別的なケアを計画、実施できる。
2. 手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を持ち、術式により起こりえる事態を予測し、正確かつ迅速に器械、材料の受け渡しを行い、器械出し看護師として円滑な手術進行に貢献できる。
3. 術中の患者の急変および緊急事態が発生した場合には、的確に状況判断し迅速かつ確実に適切なケアを提供できる。
4. リスクを回避するための最新かつ的確な情報をチームに提供し、術中の安全管理における調整的役割を発揮できる。
5. 手術決定してから回復期の周術期にある患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。

6.　周術期にある患者に関わる全ての医療スタッフがそれぞれの専門性を発揮し、より質の高い医療を推進するため、リーダーシップを発揮し、多職種と協働することができる。
7.　手術看護の実践を通して役割モデルを示し、看護職者への相談対応・支援を行うことができる。

手術医療は、健康回復を目的として行われる治療手段であり、生命に危機を及ぼすような侵襲が加わります。手術看護は、手術を受けるすべての患者・家族を対象に安全で安心な最良の手術が受けられるように医療チームの一員として情報を共有し、専門的な知識と技術を持ってその役割を果たすことが求められます。

これからも手術に携わる手術看護認定看護師として、手術を受けるすべての患者・家族に寄り添い、安心して手術医療が受けられるよう日々最善の手術看護を提供できるように尽力していきます。

がん相談支援センターの紹介

「がん相談支援センター」とは、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関する相談の窓口です。当院では、国立がん研究センターが主催するがん相談員基礎研修を修了したがん専門相談員が相談に携わっています。

国が掲げる『がん対策推進基本計画』の『がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。』という目標に沿って活動している、がん相談支援センターの役割を紹介します。

◎がん相談支援センターの主な役割◎

- **多職種連携**
  がん患者や家族の不安や心配事の支援・治療に関することに限らず、在宅生活をサポートするサービスの紹介や、経済的な問題、仕事や学業との両立、療養する場所に関する相談などに対応しています。また、必要に応じて看護師や薬剤師、管理栄養士などの緩和ケアチームと連携しサポートしています。

- **医療者とのコミュニケーション**

  医師の説明が難しい、医師に聞きたいことがあるがどうしたらよいかわからない…etc.患者や家族の悩みに対応しています。医師の病状説明に同席し、意向を伝える橋渡しのコミュニケーションツールとして、熊本県がん診療連携パス「私のカルテ」や「私の日記」および「あらお健康手帳」などを紹介する役割を担っています。

- **がんサロンの運営**

  患者や家族のピアサポートの場である、がんサロン「ひまわり」の運営を支援しています。新型コロナウイルス感染症の流行禍で開催できない**状況ですが、これまで参加の方々には、毎月、絵手紙を送っています。**

- **地域連携**

  緩和ケアの質的向上および在宅医療・療養の充実を目指し、有明緩和ケアネットワークの連携拡大を目的に、在宅緩和ケアの提供体制について隔年でアンケート調査を行っています。2020年度の調査では、医療機関１３件、訪問看護４件、居宅介護支援事業所１６件の新規加入があり、現在121件の施設に参加していただいています。その調査結果を荒尾市民病院のホームページへ掲載し、在宅医療を行っている施設をまとめた「有明地域版　在宅緩和ケアマップ」を作成・配布しています。

  また、緩和ケア目的の転院・在宅調整の連携は急を要しますので、転院先のホスピスや介護施設、在宅緩和ケアを担う関連施設とスムーズに連携できるよう努めています。

- **その他**

  インターネットを利用したオンライン会議システムを活用し、退院前カンファレンスを実施しています。

　以上が当院のがん相談支援センターの紹介になります。

　コロナ禍にあっては、容易にコミュニケーションをとることができず、患者さんやご家族の意思決定支援や、多職種連携などでの密な連携の難しさを感じています。だからこそ、コミュニケーションを大切に対応していこうと思います。がん相談支援センターは、当院の患者さん・ご家族に限らず、どなたでも利用できます。お気軽にご連絡ください。

相談内容（2020年度）
１位 医療者とのコミュニケーション
２位 転院関係
３位 在宅医療について
４位 受診に関する事
５位 緩和ケアについて
６位 介護・看護に関する事
※全体件数：６６５件

地域医療連携の会　相談支援センター

令和３年５月１４日（金）、ＺＯＯＭを用いて「地域医療連携の会」をＷＥＢ開催いたしました。荒尾市・大牟田市・玉名郡市・熊本市（西区）の医療機関・介護施設など約２９の機関、５４名の方にご参加をいただきました。

例年は「地域医療連携懇親会」として、３００名を超える方々と対面で連携を深めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ＷＥＢでの開催に至りました。

まず、大嶋病院事業管理者より開会宣言、次に勝守院長が挨拶と新病院の紹介を行いました。新病院の紹介は、ＺＯＯＭ機能の「共有」を用いて動画を配信いたしました。動画に合わせて建設予定である病院の建物の中を勝守院長の説明により、具体的なイメージが伝わったのではないかと思います。

次に救急科医長の田畑医師から新型コロナウイルス感染症の感染状況について、感染管理認定看護師の船原主任看護師より当院の取り組みや感染対策について、それぞれ約１０分間の講演を行いました。当院クラスター収束宣言を直前に控えた講演でしたので、興味を引く内容だったと思います。その後、統括診療部長の松園医師より新任医師の紹介、梶原副院長の閉会宣言にて、無事に地域医療連携の会を終えることができました。

今回のZOOMによる地域医療連携の会は、相談支援センターが中心となり参加者への案内や会場設営など運営全般を行いました。これまでＷＥＢ研修に参加することはあっても、ホストとして企画することは初めてで、慣れない点や至らない点が多々あったかと思います。しかし、多くの方々のご指導や気づきをいただき、その都度、改善を行い、スムーズに会を開催することができました。

新型コロナウイルスも新たな変異株が登場し、いつ安心した生活を送れるのか全く予想が立ちません。ですが、コロナ禍でこのＷＥＢ機能が充実したことはプラスなことであり、時間をかけて会場に行かずとも研修会などに参加できる時代になったことは素晴らしいことだと思います。これから医療機関も様々な変化を求められると思いますが、「連携」という面においては様々なツールを模索・活用し、強化していかなければいけないと実感しております。

最後に、この会にご参加・ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

新病院建設の進捗状況が分かります！

新病院建設工事の進捗状況を見える化するため、 施工業者が現場ホームページを開設しました。 このホームページは当院ホームページトップの下部にリンクを貼り付けています。 「工事進捗状況（外部リンク）」の画像をクリックしていただくと 施工業者のホームページにとびますのでお時間のあるときにご視聴ください。 現場の状況はWebカメラを使ってLive配信していますので 今の現場状況をリアルタイムに確認できます。

https://ad-hzm.jp/arao-hospital/index.htm

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。

2 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。

3 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。

4 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者さんの権利と責務》

1 あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。

2 あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。

3 あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。

4 あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。

5 あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。

6 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。

7 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。

8 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」　第４３号　2021年９月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537）　FAX：0968-62-4543
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -